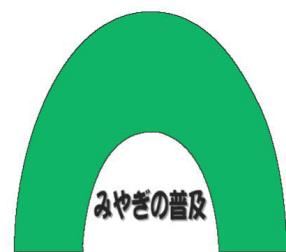


県内9か所の農業改良普及センターからの現地情報をお届けいたします。

# みやぎの 1月号

## 農業普及現場



普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。  
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.227 2026.1

紹介内容 (12/1~12/31)

### 1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

#### ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援 · · · · · 1

- 気仙沼農改：「入谷の里山活性化協議会」が豊かなむらづくり全国表彰事業で「農林水産大臣賞」を受賞しました！
- 栗 原農改：くりはら農業法人化セミナーを開催しました
- 大河原農改：女性農業者等ステップアップ講座を開催しました
- 石 卷農改：集落営農組合の法人化勉強会を開催しました

#### ② 新たな担い手の確保・育成 · · · · · 2

- 大河原農改：若手農業者を対象とした経営管理講座を開催しました
- 亘 理農改：新規就農者向け【販売戦略構築セミナー】を開催しました
- 仙 台農改：「共同販売」をテーマとしたみやぎ農業未来塾を開催しました！
- 登 米農改：輝け農業女子！ヘルシークッキング教室に参加しました
- 美 里農改：美里地区みやぎ農業未来塾「経営研修」を開催しました
- 大河原農改：みやぎ農業未来塾「大河原産業高校地域人材講話」を開催しました
- 気仙沼農改：気仙沼地区みやぎ農業未来塾（学生コース）にてゆず農家を視察しました
- 登 米農改：令和7年度登米市農村教育青年会議が実施されました
- 大河原農改：若手農業者を対象とした研修交流会を開催しました

#### ③ 園芸産地の育成・強化支援 · · · · · 5

- 石 卷農改：石巻地域でもいちごの出荷シーズンを迎えてます
- 大 崎農改：JA加美よつばねぎ部会で栽培講習会が開催されました
- 仙 台農改：利府で梨の土づくり研修会を開催しました
- 気仙沼農改：南三陸大粒ぶどう協議会反省会が開催されました
- 登 米農改：JAみやぎ登米なす部会栽培講習会・実績検討会が開催されました
- 石 卷農改：令和7年度石巻地域ばれいしょ実績検討会が開催されました
- 気仙沼農改：令和7年産さつまいもの出荷説明会が開催されました
- 気仙沼農改：令和7年度大谷いも生産者の会会議が開催されました
- 気仙沼農改：令和8年産いちご出荷目揃い会が開催されました。
- 大河原農改：水田を活用した露地園芸品目拡大に向けて研修会を開催しました
- 登 米農改：宮城県農産物品評会（果実（りんご）部門）が開催されました！
- 登 米農改：令和7年度加工用ばれいしょ実績検討会が開催されました
- 石 卷農改：石巻地域産のねぎが旬を迎えています
- 石 卷農改：東松島タマネギ部会が直播タマネギ現地検討会を開催

- 石 巻農改：ぶどうの剪定講習会が開催されました
  
  - ④ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援 ..... 10
  - 亘 理農改：下余田Ⅱ期地区担い手部会視察研修会が開催されました
  - 登 米農改：豊里町の佐々木金三氏が竹駒産業文化賞を受賞されました
  - 大河原農改：グリーンな栽培体系加速化事業検討会が開催されました
  - 仙 台農改：酪農家を対象とした堆肥生産技術のコンサルティング指導を行いました
  
  - ⑤ 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展 ..... 11
  - 亘 理農改：「なとり・ぐるっと親子講座せり収穫体験」が開催されました
  - 亘 理農改：「地域計画策定に係る協議の場」が山元町で開催されました
  - 気仙沼農改：第21回南三陸米図画コンクール及び、令和7年産新米試食会が開催されました
  - 気仙沼農改：気仙沼市杉ノ下ふれあい市民農園講習会が開催されました
  - 大河原農改：地域計画更新にかかる意見交換会が開催されました
  - 気仙沼農改：入谷の里山活性化協議会による令和7年度農林水産祭「天皇杯」受賞祝賀会が開催されました
  - 大 崎農改：「『ささ王』決定戦2025」が開催されました！

## 2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 要請・緊急・その他 ..... 14  
○ 気仙沼農改：JAまつり（第47回気仙沼地域農業祭）が開催されました

## 1. 人材育成・生産基盤の強化

### ①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○「入谷の里山活性化協議会」が豊かなむらづくり全国表彰事業で「農林水産大臣賞」を受賞しました！

令和7年12月9日  
気仙沼農業改良普及センター



令和7年11月11日に東北農政局において、令和7年度豊かなむらづくり全国表彰事業東北ブロック表彰式が開催され、東北各地から4団体が表彰を受けました。

当県からは南三陸町の「入谷の里山活性化協議会」が表彰を受け、東北農政局から農林水産大臣賞が授与されました。同協議会では廃校となった小中学校を宿泊施設や体験施設として再活用し、農作業体験や木工などのものづくり体験を通じて国内外からの来訪者との交流促進とファンづくりを行っています。

農業生産面では、新たなブランド葡萄などを販売して地域の所得向上に貢献しており、近年、若者の新規就農や里山保全団体が発足するなど盛り上がりを見せています。地域全体の総意により、地区的文化や農林業等なりわいの継承など総合的なむらづくりを推進している点が評価され今回の受賞となりました。

各受賞団体挨拶では、同協議会からは会長の阿部國博氏が登壇し、「当協議会では若者のアイデアを存分に活かし、若者のやりたいことを応援している。地域全体で楽しく活動することをモットーとして、さらに交流人口を増やし、今後も無理のない範囲で頑張っていきたい。」と話されました。

なお、同協議会は農林水産祭むらづくり部門において天皇杯を受賞し、その表彰式は11月23日に明治神宮会館で開催された農林水産祭式典において行われました。むらづくり部門での天皇杯受賞は県内初の快挙であり、協議会メンバーも喜びに溢れていきました。

普及センターでは今後も地域農業の発展を支援してまいります。

### ○くりはら農業法人化セミナーを開催しました

令和7年12月12日  
栗原農業改良普及センター



令和7年12月9日(火)、普及センター主催で、「くりはら農業法人化セミナー」を開催しました。管内では、直近3年で4つの農業法人が設立され、また、米価高騰による所得の増大や事業承継に向けた法人化に関する相談も多く、管内の農業者における法人化に向けた意識が高まっています。

セミナーは、法人形態の種類、農業法人化のメリット・デメリット、法人化のタイミング、法人登記に向けた準備など、法人化を検討する段階から、登記までの一連の流れについて、普及センター経営担当が解説しました。

当日は8名の参加となりましたが、中には法人化への意欲が高い農業者もあり、皆さんには最後まで熱心に聴講して頂きました。

今後も普及センターでは、個別経営体における農業経営の発展や地域農業の担い手不足解消に向けた農業法人化について、そのニーズを把握し、志向する農業者に対して支援していきます。

### ○女性農業者等ステップアップ講座を開催しました

令和7年12月17日  
大河原農業改良普及センター



令和7年11月28日と12月3日の2回にわたり、大河原合同庁舎会議室において、管内の女性農業者や農業後継者を対象に、松井末史氏（キノミ代表、クリエイティブディレクター、コピーライター・フォトグラファー）を講師に迎え、「農畜産物・加工品等販売や取組み等の情報発信」をテーマに写真撮影や動画づくり等魅力を伝えるための手法について研修しました。

講義では、何を伝えたいかを明確にし、それをどう表すのか等の事前の企画が重要なこと、パンフレットやブログ等に載せる写真の撮影の仕方と構図、動画作成方法等について学び、動画作成のためのコン

テシートの作成等の演習を行いました。

参加者は、日頃からSNS投稿をしている方やこれから行う方と様々でしたが、今後さらに活用していくと好評でした。

普及センターでは、これからも女性農業者の活躍に向けて、様々な方面から支援して参ります。

## ○集落営農組合の法人化勉強会を開催しました

令和7年12月18日

石巻農業改良普及センター



令和7年11月30日、石巻市前谷地地区の集落営農組合「沖営農組合」の法人化勉強会が開催され、役員や組合員等9名が出席しました。

組合員向けの初めての勉強会とのことで、普及センターから、農業法人の種類や法人化すると何が変わらるのか、メリットやデメリット等を説明したほか、まずは組合が抱えている課題や、どういった法人にしたいのかを組合内で話し合うことが重要であることをお伝えしました。

組合員からは、高齢化が進んでおり法人化は是非進めるべきだとの意見が出されたほか、これまで耕作放棄地を出さずに農地を守ってきたという組合の自負を感じられました。

普及センターでは、今後も話し合いの場のコーディネートや、進捗に応じた専門家派遣といった支援活動を行っていく予定です。

## ②新たな担い手の確保・育成

### ○若手農業者を対象とした経営管理講座を開催しました

令和7年12月2日

大河原農業改良普及センター



11月26日に大河原農業改良普及センターでみやぎ農業未来塾「若手農業者経営管理講座」を開催し、新規就農者を含む13人の農業者が受講しました。

講座では普及センター職員を講師として、複式簿記帳の目的や仕組み、青色申告、消費税の仕組み、補助金を使用した際の会計処理等を中心に説明を行いました。難しい内容もありましたが、参加者はメモを取り、熱心に学習していました。

普及センターでは会計管理を通して経営改善に取り組む農業者が増えるよう、引き続き支援を行ってまいります。

### ○新規就農者向け【販売戦略構築セミナー】を開催しました

令和7年12月4日

亘理農業改良普及センター



11月27日、亘理農業改良普及センターで第3回みやぎ農業未来塾【新規就農者のための販売戦略構築セミナー】を開催しました。

今回は、宮城県園芸推進課の渡邊流通ビジネス相談員を講師に招き、「流通の基礎」をテーマに講義していただきました。

講義では「バイヤーや販売店の方など、関係者とコミュニケーションを取ってほしい」、「自身のこだわりや優位性を売価に反映してほしい」など、実践的なアドバイスが多数あり、参加者は熱心に聞き入っていました。

後半のワークショップでは、販売面だけでなく、新規就農ならではの悩み等、参加者間で活発な意見交換が行われました。参加者からは「価格設定を見直したい」、「多様な新規就農の事例が聞けて良かった」といった声が聞かれ、参加者自身の方向性を考える有意義な時間となりました。

今後も、普及センターは次世代を担う青年農業者を支援してまいります。

○「共同販売」をテーマとしたみやぎ農業未来塾を開催しました！  
令和7年12月9日  
仙台農業改良普及センター



令和7年12月4日に、「みやぎ農業未来塾経営者養成講座」を仙台農業士会と共に開催し、講師を含め18名の農業者・新規就農者が参加しました。

今回は、「共同販売」をテーマに、「ロットを増やして販路を拡大！共同販売に取り組む先進農家視察会」と題して、仙台市内の2名の生産者のほ場を視察訪問しました。

1か所目は、近隣の農業者と任意組織で共同販売・共同出荷に取り組んでいる認定農業者を訪問しました。現在は、仙台白菜を中心にロットを増やすことで、契約出荷を行い、安定な販売に繋がっている取組について説明いただきました。また、積極的にSNS等を活用した情報発信も行っており、参加者からは、活用で工夫している点などの質問が多く挙がっていました。

2か所目は、県の指導農業士として活躍している認定農業者のほ場に伺いました。農業者自身が中心となって立ち上げたJAのブロック一部会の活動等について説明いただきました。共同販売の取組だけでなく、いつの時期に作り、どこに、誰に対して売るのかなど、経営戦略にも触れた説明内容に、参加者は興味津々でした。

現地視察後は、共同販売についてより理解を深めるための意見交換を実施し、共同販売を行う利点・欠点や、取り組むまでの課題などについて活発に話し合いがなされ、農業者間での交流が深まりました。

参加者からは、「部会などに加入することで情報収集できることが分かった」、「近くに年齢の若い農業者がいないが、共同販売に対して興味が湧いた」などの感想が聞かれました。

普及センターでは、今後も積極的に農業者同士の交流を進め、新規就農者の経営の安定化に向けて支援してまいります。

○輝け農業女子！ヘルシークッキング教室に参加しました

令和7年12月17日  
登米農業改良普及センター



令和7年11月19日、大和町「まほろばホール」を会場に、「輝け農業女子！ヘルシークッキング教室」が開催（主催：宮城県、共催：宮城県生活研究グループ連絡協議会）され、登米生活研究グループの会員も参加しました。

講師は登米市内で「精進スイーツ結び」を経営している熊谷桂子氏で、動物性たんぱく質やアレルギー原因物質を含まない食材6品のマクロビオティック料理を教えていただきました。

県内から20名の参加者があり、各班ごとにレシピを確認しながら、役割分担し時間内に料理を完成していました。

調理実習後は、熊谷講師からアレルギーに悩む人が多いこと、今の時代は子供たちが料理や食について学ぶ機会が無いことなど、実体験をもとに講話をいただきました。

今回の研修会で学んだことを登米地区の会員にも伝えたいと思います。

○美里地区みやぎ農業未来塾「経営研修」を開催しました

令和7年12月19日  
美里農業改良普及センター





青年農業者等の営農意欲や経営管理能力の向上を図るため、令和7年12月12日（金）に、美里地区みやぎ農業未来塾「経営研修」を美里農業改良普及センターで開催しました。

美里町から全国的に経営支援活動を展開しているホライズンコンサルティンググループ（株）代表取締役の庄司和弘経営士を講師に、10名の農業者が参加して、講演、他県の若手農業者とのオンライン交流、ワークショップを行いました。

講演は「農業と『ビジョン型経営』の可能性」と題し、農業の成長性を生み出すための事業構造とビジョンの立て方について、全国の若手農業者の事例を交えながら解説いただきました。

オンライン交流では、庄司先生の経営塾の卒業生であり、滋賀県で柿を栽培している若手生産者に、ブランド化を軸としたビジョン型経営の事例を紹介いただきましたとともに、研修会参加者との意見交換に参加していただきました。

ワークショップでは、自身の将来ビジョンについて、参加者同士でそれぞれのビジョンを共有しながら、活発な意見交換が行われていました。

参加者からは、「今回の研修で自分がどの方向を向くべきかわかった気がした」「他の参加者のビジョン

を知ることができ、とても参考になった」等の感想が寄せられ、農業者同士の交流の場としても、有意義な研修となりました。

## ○みやぎ農業未来塾「大河原産業高校地域人材講話」を開催しました

令和7年12月22日

大河原農業改良普及センター



令和7年12月11日（木）に当地域内の高校生が地域農業の魅力に触れる機会とするため、大河原産業高等学校と連携して、みやぎ農業未来塾「大河原産業高校地域人材講話」を開催されました。

今回は、大河原農業改良普及センターから「農業という職業について」説明した後、2人の先輩農家から講和を行いました。

先ず、『～木華ができるまで～ キクラゲ農家のお話』と題して、国産キクラゲ栽培者の佐藤氏から、続いて『蔵王関口農場が目指しているもの』と題して、宮城県仙南農業士会会长の関口氏からお話をいただき、栽培管理のみに留まらない農業という産業について理解を深めました。

ざわついていた会場は講話が始まると静かになり、真剣に聞き入る高校生の姿を見ることが出来ました。終了後には代表者から感謝の言葉もあり、大変良い機会となったようです。

今後も普及センターでは農業後継者の確保・育成にむけ、高校と連携した継続的な活動を進めていきます。

## ○気仙沼地区みやぎ農業未来塾（学生コース）にてゆず農家を視察しました

令和7年12月23日

気仙沼農業改良普及センター





令和7年12月10日、気仙沼農業改良普及センターでは農業高校の生徒を対象に「気仙沼地区みやぎ農業未来塾」を開催しました。当未来塾は、気仙沼市大島の特産果樹である「ゆず」の生産状況や栽培技術について理解を深めることにより、青年農業者の確保・育成につなげることを目的とし、当日は、宮城県本吉響高等学校農業コースの生徒4人と引率の先生方が参加しました。

気仙沼市大島のゆず農家である小山良彦氏が研修の講師となり、参加者は大島のゆずの歴史や生産状況、収穫までの1年の作業等について説明を受けました。その後、ほ場にてゆずの収穫体験を行い、生徒たちは初めての作業に緊張しながらも楽しんでいる様子でした。

生徒からはゆずの販売先やオフシーズンの木の管理、鳥獣被害等について様々な質問が挙がり、活発な研修会となりました。

普及センターでは、今後も教育機関と連携し、担い手の確保・育成に努めていきます。

## ○令和7年度登米市農村教育青年会議が実施されました

令和7年12月24日  
登米農業改良普及センター



令和7年12月19日に宮城県登米合同庁舎で登米市農村教育青年会議が開催されました。本会議は登米市4Hクラブの活動の一環として、青年農業者が4Hクラブなどの日々の活動を通じて得た成果を互いに発表・情報交換し、各自の農業経営の理解を深めるとともに新たな知見を得ることを目的とするものです。

当日はクラブの活動紹介に加え、4Hクラブ員2人が意見発表を行い、現在の経営概要と今後の展望、4Hクラブで今後行いたいことなどを自分の考えと

共に発表しました。今回発表した鈴木氏は2月に行われる宮城県農村教育青年会議へ出場することとなりました！

当普及センターは今後も登米市4Hクラブの活動を支援してまいります。

## ○若手農業者を対象とした研修交流会を開催しました

令和7年12月26日  
大河原農業改良普及センター



令和7年12月17日、みやぎ農業未来塾「若手農業者研修交流会」を開催し、新規就農者や今後就農予定の10名が参加しました。

研修では、村田町の自然農場「風天」の中山建氏に、自身の農場の柱である自然農法や、就農前～就農後に起こるイベントや注意事項について、自身の経験を踏まえながらお話しいただきました。

その後の交流会では、参加者同士が3つのグループにわかれ、中山氏の話に対する感想や自身の経営などについて率直に語り合い、コミュニケーションを深めました。

普及センターでは、今後も継続して若手農業者間のネットワークづくりの機会を設けてまいります。

## ③園芸産地の育成・強化支援

### ○石巻地域でもいちごの出荷シーズンを迎えていきます

令和7年12月2日  
石巻農業改良普及センター



石巻地域では 11 月中旬に今シーズンのいちごの出荷が始まりました。

今年は育苗時期の猛暑が出荷開始時期に影響しないか心配されましたが、いちご生産者の皆さんは栽培状況の現地検討会などを行なながら丁寧に栽培管理し、9 月上旬の定植時期以降の気象が概ね平年並みとなつたこともあり、結果的には平年と同時期の出荷開始となりました。

県内の量販店や仙台市内の果物専門店などで石巻地域産のいちごが販売されていますので、シーズンはじめのフレッシュな味わいのいちごをぜひご賞味ください。

#### ○JA加美よつばねぎ部会で栽培講習会が開催されました

令和 7 年 12 月 3 日  
大崎農業改良普及センター



加美町は、40 年以上にわたり宮城県最大のねぎの産地として知られています。令和 7 年 12 月 2 日、その生産者で組織される JA 加美よつばねぎ部会において、講習会が開催されました。本格的な寒波が訪れる時期にも関わらず、多くの生産者が参加しました。

普及センターからは、今作で問題となった病害への対策や夏場の温度管理対策、囲いねぎの取組などについて説明を行い、農薬メーカーからは、資材の適切な使い方について説明がありました。近年の異常気象による夏場の高温など栽培環境が大きく変化する中、参加者の皆さんにはこうした課題に対応するための情報を真剣に受け止め、自らの栽培管理をより良いものにしようとする強い意欲を感じられました。

普及センターでは、今後も技術向上を目指し、引き続き生産者の皆さんを支援していきます。

#### ○利府で梨の土づくり研修会を開催しました

令和 7 年 12 月 4 日  
仙台農業改良普及センター



令和 7 年 11 月 25 日に、利府町役場の研修室を会場に、JA 仙台利府梨部会の土づくり研修会が開催され、部会員 17 名が参加しました。

当普及センター職員が講師となり、今年行った梨園地の傾向や土壤分析結果の見方について解説を行いました。土づくり研修会は令和 5 年、6 年と開催しており、これまでの内容も振り返りながら、土づくり全般に及ぶ内容となりました。

また、近年の温暖化に伴う発芽不良等について、肥料の慣行である冬季施用と春季施用による発生率や他産地の取組を紹介しました。利府梨部会でも発芽不良の問題が発生しており、梨の収量や品質にもかかわってくるため、参加した生産者は真剣な面持ちで研修に参加していました。

普及センターでは、今後も、高品質な梨の生産に取り組めるよう、利府梨部会を支援していきます。

#### ○南三陸大粒ぶどう協議会反省会が開催されました

令和 7 年 12 月 5 日  
気仙沼農業改良普及センター



南三陸大粒ぶどう協議会は、令和 6 年から町内の貝殻等による土づくりを行って栽培し、一定以上の粒径などの大粒ぶどうを「しおかぜ葡萄」として販売しています。同協議会の今年のぶどう栽培や販売についての振り返りを行う反省会が令和 7 年 11 月 29 日に開催され、協議会員、関係機関等 15 名が参加しました。最初に、協議会の阿部会長から「今年は渴水が心配だったがなんとか品質のよいぶどうができた。昨年より販売会での「しおかぜ葡萄」の売上げが伸び、手応えを感じた」と挨拶がありました。

普及センターからは、今作の栽培面、販売面等につ

いての課題や来年に向けた改善点の提案等を説明しました。その後、今年取り組んで課題だったことや良かったこと等を参加者で共有し、良い品質のぶどうを生産するには、基本に忠実な栽培管理を行うことが必要であることを再確認しました。

普及センターでは、今後も同協議会の活動を支援していきます。

#### ○JAみやぎ登米なす部会栽培講習会・実績検討会が開催されました

令和7年12月8日

登米農業改良普及センター



令和7年11月28日に、なす栽培講習会・実績検討会が開催され、部会員11名が参加しました。

栽培講習会では、普及センター職員が講師となり、土壤分析の診断結果の見方や活用方法、今年発生が見られる青枯れ病、半身萎凋病の原因や、対策となる土壤消毒の手法について、説明しました。

実績検討会では、今年度の販売実績について事務局から説明がありました。出荷数量は昨年とほぼ変わらないものの、他産地の影響などもあり夏場の単価が高く、管内の販売額は大きく向上しました。

今後も、適切な栽培管理についての指導を継続して行い、なすの安定生産に向けて支援していきます。

#### ○令和7年度石巻地域ばれいしょ実績検討会が開催されました

令和7年12月8日

石巻農業改良普及センター



令和7年11月25日（火）に石巻合同庁舎にて「令和7年度石巻地域ばれいしょ実績検討会」が開催され、契約出荷先のカルビーポテト（株）、農業法人5社、JAいしのまきから担当者が出席し、普及センターなどの県出席者とともに検討が行われました。

本年度は6月中旬以降の記録的な猛暑と渇水により、いもの肥大が進まず小玉傾向となつたことが報告されました。これを受け、検討会では今年度の収量

の要因を考察するとともに、来年度に向けた異常気象への対応策などについて、活発な意見交換が行われました。気象リスクが高まる中においても、生産者と関係機関がより一層の連携を図り、次年度における良質な加工用ばれいしょの安定供給を目指した取組を推進していきます。

#### ○令和7年産さつまいもの出荷説明会が開催されました

令和7年12月10日

気仙沼農業改良普及センター

令和7年10月10日、JA新みやぎ主催のR7年産さつまいも収穫・出荷説明会が南三陸統括営農センターを開催され、生産者5人と各関係機関職員が参加しました。

最初にJA新みやぎから今年の生産状況について、猛暑、少雨により生育不良が目立ち苦戦したとの話があり、その後、気仙沼普及センターから収穫から貯蔵までの管理について、JAと共に作成した「さつまいもだより」を用いて説明を行いました。

最後に、収穫したさつまいもを囲んで出来栄えや出荷規格について意見交換を行い、研修会は大変有意義なものとなりました。

普及センターでは、引き続きさつまいもの安定生産に向けた支援を行っていきます。

#### ○令和7年度大谷いも生産者の会会議が開催されました

令和7年12月10日

気仙沼農業改良普及センター

令和7年10月27日に、「令和7年度大谷いも生産者の会会議」が道の駅大谷海岸を開催され、生産者12人と関係機関が参加しました。

大谷いもは、気仙沼市大谷地区で戦前から親しまれてきた伝統のジャガイモで、海藻を肥料として用いた栽培方法によりミネラルを豊富に含むのが特長です。また、令和7年8月に商標登録されました。

本会議では今年の販売実績や来年度の栽培方針について話し合い、気仙沼農業改良普及センターからは、そうか病対策と品質向上のための栽培管理について説明を行いました。

生産者からは病害虫に関して次々に質問があり、研修会は大変有意義なものとなりました。

普及センターでは、引き続き大谷いもの安定生産に向けた支援を行っていきます。

#### ○令和8年産いちご出荷目揃い会が開催されました

令和7年12月10日

気仙沼農業改良普及センター



令和7年11月26日、JA新みやぎ階上いちご部会員のハウスで、令和8年産いちごの出荷に向けた「目揃い会」が開かれました。

当日は、生産者7名のほか、JA新みやぎ、JA全農みやぎ、㈱氣仙沼会青果物流通市場、普及センターの関係者が参加し、いちごの出荷規格や着色の目安などについて、資料を使いながら確認しました。

また、普及センターからは、今年度の花芽分化の状況の振り返りや、冬に向けた栽培管理のポイント、今後の親株の配布予定などについて説明しました。

今年度は、夏季高温の影響により出荷できるいちごがまだ少ない中での開催となりましたが、参加者同士で意見を交わしながら、今後の栽培の進め方について考える貴重な機会となりました。

普及センターでは今後も、生産者や関係機関と連携しながら、いちごの安定生産、出荷に向けた栽培技術の向上を支援していきます。

## ○水田を活用した露地園芸品目拡大に向けて研修会を開催しました

令和7年12月11日

大河原農業改良普及センター



令和7年11月19日に、みやぎ仙南農業協同組合と共に「仙南地域における水田を活用した露地園

芸品目拡大推進研修会」を開催しました。

関係者含め56名が参加したこの研修会では、管内の露地園芸作物の中でも注目度が高まっている「さつまいも」を中心に株式会社やまとファームみらい野の馬場氏から、持続可能な経営を目指す上で取り組み始めた経緯等について講演いただきました。また、管内の中山間地域でさつまいも生産に取り組んでいる「農事組合法人ふるせきファーム」の岡田理事からは、農地整備事業の進捗に合わせた取組状況などを分かりやすく説明いただきました。

普及センターでは、さつまいもの栽培体系と育苗管理技術について紹介しました。

大河原農業改良普及センターでは、今後も園芸作物の生産拡大に向けて支援していきます。

## ○宮城県農産物品評会(果実(りんご)部門)が開催されました！

令和7年12月11日

登米農業改良普及センター



11月27日（木）に宮城県農産物品評会（果実（りんご）部門）が宮城県庁で開催されました。

登米管内からはりんご1点が出品され、審査の結果、宮城県知事賞1等（1席）を受賞しました。

受賞された千葉氏は、省力的な樹形であるV字ジョイント栽培を県内でいち早く取り入れた第一人者です。今回出品されたりんごは、V字ジョイント栽培で育成されており、日々の丁寧な管理とたゆまぬ努力の成果が実ったものです。心よりお祝い申し上げます。

登米で育まれたりんごは、市内の農産物直売所や、生産者の皆様の庭先販売所などでお買い求めいただけます。※今季の販売は終了している場合がございます。

普及センターでは、今後もJAみやぎ登米りんご生産部会の活動について支援を行ってまいります。

## ○令和7年度加工用ばれいしょ実績検討会が開催されました

令和7年12月19日

登米農業改良普及センター



登米地域では、令和3年に加工用ばれいしょ生産者による「登米ぼてと組合」が設立され、組織的な活動が行われています。今年の作付面積は約15haとなっており、4月の定植を経て、7月末から8月中旬にかけて収穫作業が行われました。

令和7年12月9日（火）に開催された「令和7年度加工用ばれいしょ実績検討会」では、組合員7名ほか契約出荷先のカルビーポテト（株）、JA、普及センターなどの関係者が参加し、今作の振り返りと次期作に向けた課題共有を行いました。

今期は、6月以降の干ばつなど厳しい条件に見舞われましたが、生産者の丁寧な管理の結果、実需者であるカルビーポテト（株）からは、「品質低下もなく非常に高品質である」との高い評価を頂くことができました。この成果を次期作へつなげるべく、検討会では集荷場の環境整備や排水対策の徹底、種芋の保管方法など、安定生産に向けた具体的な改善策が示され、産地の現状を見直す重要な機会となりました。

普及センターでは、今後も加工用ばれいしょの安定生産と産地育成を継続して支援してまいります。

## ○石巻地域産のねぎが旬を迎えています

令和7年12月23日

石巻農業改良普及センター



県内でねぎの産地として知られる石巻地域で、秋冬ねぎの出荷が最盛期を迎えています。

今年は6月中旬から7月下旬までの高温・干ばつにより生育が停滞し、出荷開始や出荷盛期が平年から1ヶ月程度遅れましたが、8月以降は生育が回復し、現在は揃いの良いねぎが盛んに収穫・出荷されています。

ねぎは気温の低下とともに甘みが増しておいしくなると言われます。寒い季節に定番の鍋や、焼きねぎなど、加熱することでおいしさを引き出せます。石巻地域産のねぎをぜひご賞味ください。

## ○東松島タマネギ部会が直播タマネギ現地検討会を開催

令和7年12月26日  
石巻農業改良普及センター



令和7年12月18日に、JAいしのまき東松島タマネギ部会主催による、令和8年産の直播たまねぎ現地検討会が開催され、東松島市内で直播たまねぎに取り組んでいる3法人の他、JAいしのまき園芸課及び東松島営農センター、全農みやぎ、加工業者が出席しました。

3法人の直播タマネギ栽培は、令和8年産で3年目となり、昨年から大幅に面積が拡大され面積は2倍の6.6haとなりました。

現地で「苗立ち率」を確認し、その後、東松島営農センターを会場に「販売会議」を開催し、予想収穫量や今後の対策等について協議しました。生育状況は10月1日のゲリラ豪雨の影響で、発芽せず、途中で断念した場が多く、大幅な減収が予想されるため、一部を春の移植栽培に切り替えることになりました。

普及センターでは、全農みやぎやJAいしのまきと連携して、直播たまねぎの安定生産を推進しています。

## ○ぶどうの剪定講習会が開催されました

令和7年12月26日  
石巻農業改良普及センター



令和7年12月22日にJAいしのまきの「出荷者向けぶどう冬季剪定講習会」が開催されました。生産者1名の栽培パイプハウスを会場にJAいしのまきの直売所等へシャインマスカットなどのぶどうを出荷している生産者11人が参加しました。

講師は農業・園芸総合研究所花き・果樹部果樹チームの研究員が務め、芽の見分け方や1芽剪定の際の適切な切断位置、枯死している芽座の位置に結果母枝をつくるための補助的な枝づくりなどについて、手本を見せながら講習しました。参加者と講師の間での質疑応答や意見交換も活発に行われました。

今後、参加した生産者の皆さんのが講習内容に従って剪定作業を実施することにより、来年のシャインマスカットの作柄が良くなることが期待されます。

#### **④収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援**

##### **○下余田Ⅱ期地区担い手部会視察研修会が開催されました**

令和7年12月2日  
亘理農業改良普及センター



令和7年11月20日（木）、名取市の下余田Ⅱ期地区担い手部会の視察研修会が開催され、部会員10名を含む計20名が参加し、先進事例として岩沼市の農事組合法人玉崎と角田市の株式会社飛躍show（ヒヤクショウ）を訪問しました。

下余田Ⅱ期地区担い手部会は、同地区のほ場整備を契機に組織された部会で、新たに担い手となる高柳生産組合と地元生産者で構成されています。今回の研修は、令和8年度から始まる工事を控え、組織体制や運営方法、機械・施設設備など、喫緊の課題を確認することを目的に実施しました。

視察先の両法人は、現在の経営状況と将来的な経営面積を見据えた機械・施設整備を計画的に進めしており、非常に参考になる事例でした。参加者は、各種事業の活用方法や資金調達の工夫、経営方針などについて学ぶことができました。また、法人運営の苦労や乾田直播などの新技術の活用事例も紹介され、有意義な研修となりました。

今後は、補助事業を活用した乾燥調製施設の導入に向けて、高柳生産組合との打合せを密に行い、ほ場整備の面工事に伴う経営準備を進め、事業が滞りなく進行するよう支援してまいります。

##### **○豊里町の佐々木金三氏が竹駒産業文化賞を受賞されました**

令和7年12月5日

#### **登米農業改良普及センター**



竹駒神社（岩沼市）が、郷土の農林水産業等産業振興に功績のあった個人や団体に授与する第70回「竹駒産業文化賞」に、豊里町の佐々木金三氏が農業（個人）の部で選ばれ、令和7年11月23日、授賞式が行われました。

佐々木氏は、JAみやぎ登米豊里稲作部会の立ち上げに関わると同時に副部会長を務め、その後、部会長として地域の稲作のけん引役として中心的な役割を果たしてきました。また、「環境保全米こだわりのササニシキ復活プロジェクト」に取り組み、高品質なササニシキの生産およびササニシキブランド復活に大きく貢献してきました。

12月2日に佐々木氏が宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所に表敬訪問され、「引き続き高品質なササニシキの生産に努めていきたい。」と今後の稲作への意気込みを述べられました。

普及センターでは、これからも地域農業の担い手の取組を支援していきます。

##### **○グリーンな栽培体系加速化事業検討会が開催されました**

令和7年12月17日  
大河原農業改良普及センター



持続的な食料システムの確立に向け、化学肥料の使用量低減や作業の省力化が求められています。管内では「グリーンな栽培体系加速化事業」を活用し、家畜堆肥の施用によって、慣行栽培よりも基肥の化成肥料を減らし環境への負荷を低減した米づくりが行われています。

事業実施主体であるグリーン米研究会（構成員：面川農場株式会社、有限会社花園種苗、大河原農業改良普及センター）では、令和7年12月12日に角田市で検討会を開催しました。管内農業者等34名が参加し、豚ふん堆肥を活用した水稻生産、栽培支援システムザルビオフィールドマネージャー活用のメリット、豚ふん堆肥の生産概要および実用機械について5名の講師から話を聞きました。

検討会後に計画していた、フレコンハンガー付きGPSプロードキャスターを用いた豚ふん堆肥散布の実演は、強風のため、動画上映に切り替えました。動画は、予行演習時に撮影したもので、その映像を見ながら機械メーカー等の説明を聞き、豚ふん堆肥の施用法を学びました。牛、鶏の堆肥も含めて広く利用されることが望されます。

#### ○酪農家を対象とした堆肥生産技術のコンサルティング指導を行いました 令和7年12月18日 仙台農業改良普及センター



令和7年12月10日と11日の2日間、仙台市の酪農家において、専門家による堆肥の生産技術に関するコンサルティング指導を行いました。

訪問した酪農家では、生産した堆肥を牧草地へ還元しておりますが、以前から牧草地での雑草対策に苦慮しており、雑草の一因と考えられる堆肥の品質について試行錯誤されていました。

そこで今回は、国の「畜産堆肥流通体制支援事業」を活用して、(一財)畜産環境整備機構の専門家ら3名にお越しいただき、堆肥生産設備や堆肥の品質を確認し、現状の分析と改善に向けた指導をいただきました。

現状の分析結果としては、堆肥の生産設備等は十分であり、堆肥の水分調整をあともう一歩行えると良いというものでした。そのために、水分調整用のおが粉の量を少々増やすことや、堆肥舎の一部に強制通気設備を導入する改善策などが指導されました。

指導を受けた酪農家からは、「これまで色々試したが、やるべきことが明確に分かった。費用なども考えて、やれるところから試していきたい」などの感想が聞かれました。

普及センターでは、持続性の高い畜産経営の実現

に向けて、今後も畜産農家を支援してまいります。

#### ⑤地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

##### ○「なとり・ぐるっと親子講座せり収穫体験」が開催されました 令和7年12月1日 亘理農業改良普及センター



名取市地域農産物等消費拡大推進協議会（事務局：名取市農林水産課）が主催する「なとり・ぐるっと親子講座せり収穫体験」が、令和7年11月8日に開催され、普及センターは運営支援を行いました。

当日は、秋晴れの中、17家族46人の親子が参加しました。2班に分かれ、マイクロバスで生産者は場に移動し、収穫・洗浄作業の見学後、市役所バスで上余田せり集出荷場に戻り、JA担当者から流通の説明や洗浄・調製体験、子供用胴長の試着を体験しました。

生産者から「井戸水を利用して栽培や洗浄をしており、井戸水の水温は14~15℃で年間一定です。収穫作業は、秋季は朝5時30分頃から、冬は朝7時頃から始めています。鴨が根っこを食べて被害が出ないように、網やテングスを張って対策をしています」と説明がありました。参加者からは「朝、早くからの作業は大変ですね。」「鴨がせりの根っこを食べ被害が出ていることを初めて知りました。」と驚きの声が聞かれました。

また、生産者からは「品質に気を付けて出荷しています。『仙台せり』を鍋物などで美味しい召し上がってください。」とPRがありました。

普及センターでは、地元の農業への理解を深める取組を支援し、名取市の特産品のファンが一人でも多く増えるよう努めています。

##### ○「地域計画策定に係る協議の場」が山元町で開催されました 令和7年12月1日 亘理農業改良普及センター



山元町では、令和6年度中に地域計画を策定・公表していますが、農業者の意見を入れた計画のブラッシュアップが必要とのことから、令和7年11月17日、18日の2日間、山元町2地区において「令和7年度地域計画策定に係る協議の場」が開催されました。

17日は山下地区（花釜区）、18日には坂元地区（町区）の協議が行われ、話し合いには、地域の担い手や農業委員、農地利用最適化推進委員が参加しました。初めに、山元町が地域計画策定の概要及び見直しの趣旨を説明し、会議の参加者が会場に用意された拡大地図を用いて、目標地図の検討を行いました。協議では、地区の農業委員が司会進行を務め、農地利用状況が反映された地図を基に、将来の農地集積について活発な議論が交わされ、その結果として将来の利用イメージの地図への色塗りが進められました。

山元町では、今後も必要に応じて、地域計画見直しの協議が行われる予定です。

普及センターは、地域計画のブラッシュアップに向け、引き続き支援してまいります。

## ○第21回南三陸米図画コンクール及び、令和7年産新米試食会が開催されました

令和7年12月4日

気仙沼農業改良普及センター



「南三陸米」は、気仙沼市、南三陸町、登米市津山町で生産された「ひとめぼれ」で、農産物検査で1等に格付けされた品質の良いお米です。この「南三陸米」を題材にした図画コンクールの表彰式と新米試食会が、令和7年10月18日、南三陸米地産地消推進協議会の主催で開催され、入賞児童17人と保護者、関係者を含め約60人が出席しました。

図画コンクールの入賞作品に対して気仙沼地方振興事務所から「のびのびとした絵で南三陸米の魅力が存分に伝わる。」との講評のあと、入賞児童

には賞状と、副賞として南三陸米が贈られ、小さな体で大きな米袋抱えている姿がとても印象的でした。

新米試食会では、新米とともに南三陸町産の農産物を使用したおかずが多数振舞われ、「モチモチしていて美味しい。」、「おかずとよく合う美味しいお米だ。」などの声が聞こえました。

普及センターでは、今後も「南三陸米」の生産振興とブランドの発展を支援していきます。

## ○気仙沼市杉ノ下ふれあい市民農園講習会が開催されました

令和7年12月10日

気仙沼農業改良普及センター



令和7年11月4日、気仙沼市杉ノ下ふれあい市民農園で、気仙沼市主催の「土づくり講習会」が開かれ、市民農園利用者5名が参加しました。この農園は、気仙沼市が運営する貸し農園で、気軽に野菜づくりを楽しむことができます。

今回の講習会は、農園利用者を対象とした初めての取り組みで、気仙沼普及センターの職員が講師を務め、堆肥の上手な使い方、土壤分析の結果をもとにした施肥方法などをわかりやすく説明しました。

参加者からは、土壤の採取方法や生育状況に応じた肥培管理の質問があり、有意義な講習会となりました。

本講習会は市民農園利用者を対象とした取り組みですが、土づくりや施肥といった農業の基本技術を広く伝えることで、地域の農業への理解を深め、将来の担い手育成や持続可能な農業につながる活動となっています。普及センターでは、こうした活動を通じて、地域農業の基盤づくりを支援しています。

## ○地域計画更新にかかる意見交換会が開催されました

令和7年12月18日

大河原農業改良普及センター



将来の農地利用の在り方を決める「地域計画」は実行に向けた見直しを行っていくことが重要とされています。そこで、川崎町では更新に向けた地域農業者等の意見交換会を6日間の日程で、6地区において開催しました。

各地域での意見交換会においては、目標地図に名前が載っている担い手などが集まり、様々な意見が出されました。「鳥獣被害が多くて耕作が困難」「もうすでに手一杯状態」といった声がある一方、「将来に向けて地域を守っていくため、担ってくれる人がやりやすいように協力しよう」という意見も聞こえ、今後も実現に向けて話し合いを続けていくということで場が締められました。

今後も普及センターでは「地域計画」の実現に向けた意見交換等に対し、継続的な支援を行っていきます。

## ○入谷の里山活性化協議会による令和7年度農林水産祭「天皇杯」受賞祝賀会が開催されました

令和7年12月23日  
気仙沼農業改良普及センター



入谷の里山活性化協議会は令和7年度豊かなむらづくり全国表彰事業で農林水産大臣賞を受賞し、令和7年度農林水産祭むらづくり部門において天皇杯を受賞しました。この受賞の選定理由には普及センターがプロジェクト課題として支援している「しおかぜ葡萄」の取組が地域の振興に寄与していることも評価されました。

「天皇杯」受賞を祝し、令和7年12月7日に南三陸町立入谷小学校体育館において祝賀会が開催され、地域住民や関係機関など総勢190人が参加しました。今回の祝賀会は企画から運営まで、入谷の里山活性化協議会を筆頭に地域住民の協力を得て、全て手作りで行われました。民話「ばば山」の創作演劇公演や同協議会主要メンバーである4人の「阿部さん」で結

成された土着型秘密結社「アベンジャーズ」のプロモーションビデオのお披露目、今後の入谷地区を担う若手4人による「はっぴいポジティブ宣言」等、更に地域を盛り上げる企画が多数盛り込まれていました。

昼食には仙台藩の養蚕の祖である山内甚之丞生誕330年を記念して作られた「甚之丞弁当」が振舞われました。このお弁当に関しても参加者190人分を入谷地区内のグリーンツーリズム等に取り組む4施設で分担して作られ、それぞれ工夫が凝らされた豪華なお弁当でした。

最後は参加者全員で、今後入谷地区のPRに使用するための記念動画の撮影が行われ、更なる入谷地区的活性化が感じられました。

普及センターでは今後も地域農業の発展を支援してまいります。

## ○『ささ王』決定戦 2025が開催されました！

令和7年12月25日  
大崎農業改良普及センター





令和7年11月21日（金）、宮城県古川農業試験場において「第9回全国ササニシキ系『ささ王』決定戦2025」が開催されました。

このイベントは、「大崎の米『ささ結』ブランドコンソーシアム」と大崎市が平成29年から主催する国内唯一のササニシキ系銘柄米（ささ結、ササニシキ）のおいしさ日本一を競うコンテストです。

第9回目となる今回は、大崎市内外の73名の生産者から計84点（ささ結32点、ササニシキ52点）の出品があり、事前に機器分析（食味分析計、品質判定機）によりトップ10（9名10点）の米が選抜されました。

11月21日の決定戦（最終審査）では、米の食味に関する専門家5名による食味官能審査が行われ、蔵王町のエコファーム蔵王株式会社のササニシキが第九代『ささ王』に決定したほか、2点が「金ささ賞」、7点が「銀ささ賞」、1点が「ささ王・大崎耕土賞」（ささ結の最高賞）に選ばれました。

また、会場では、一般参加者がトップ10の米を食べ比べ、トップ3（ささ王賞、金ささ賞2点）を予想するチャレンジ企画も開催され、盛り上がりを見せっていました。

受賞された皆さん、誠におめでとうございます！

○第9回全国ササニシキ系『ささ王』決定戦 2025  
(大崎市HP)

<https://www.city.osaki.miagi.jp/shisei/soshikikarasagasu/sangyokeizaibu/norinshinkoka/5/1/sasaouketteisen/21053.html>

## 2. 持続可能な農業・農村の構築

### ① 要請・緊急対策、その他

○JAまつり(第47回気仙沼地域農業祭)が開催されました。

令和7年12月10日  
気仙沼農業改良普及センター

令和7年11月9日、JA新みやぎ気仙沼支店構内の特設会場で「JAまつり(第47回気仙沼地域農業祭)」が開催されました。会場では、地域の農林産物や加工品の販売のほか、餅まきイベントなどが行われ、家族連れをはじめ多くの来場者でにぎわいました。

また、JAまつりの一環として実施された「農産物共進会」には、JA新みやぎ南三陸地区管内から、玄米や野菜、果樹など204点が出品され、会場内にはたくさんの農産物が

並びました。前日に行われた審査会では、普及センター職員も審査に参加し、金賞5点、銀賞7点、銅賞15点が選ばれました。

今年は猛暑や渇水など、農産物の栽培には厳しい気象条件となりましたが、生産者の丁寧な管理により、品質の高い農産物が集まりました。来場者の皆さんに地場農産物の魅力やおいしさを知っていただく、良い機会となりました。

普及センターでは今後も、地場農産物の魅力向上に向けた取組を、関係機関と連携しながら支援していきます。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>

〒989-1243

大河原町字南 129-1

TEL:0224-53-3519

<亘 理>

〒989-2301

亘理町逢隈中泉字本木9

TEL:0223-34-1141

<仙 台>

〒981-0914

仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8320

<大 崎>

〒989-6117

大崎市古川旭四丁目1-1

TEL:0229-91-0727

<美 里>

〒987-0005

美里町北浦字笹館5

TEL:0229-32-3115

<栗 原>

〒987-2251

栗原市築館藤木5-1

TEL:0228-22-9404

<登 米>

〒987-0511

登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5

TEL:0220-22-8603

<石 卷>

〒986-0850

石巻市あゆみ野5-7

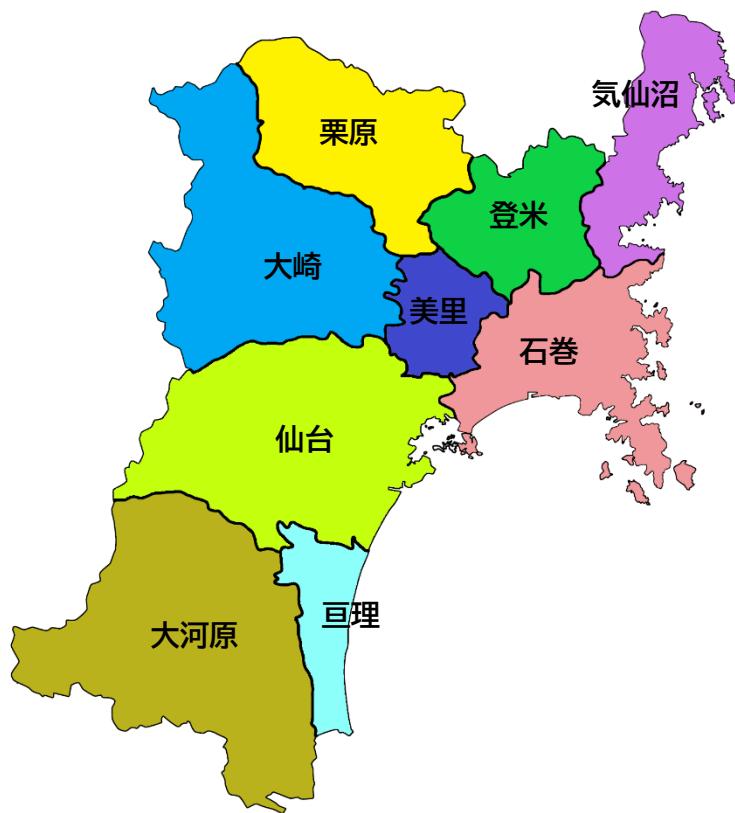
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>

〒988-0181

気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6

TEL:0226-25-8068



\*各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.227

発行日:2026年1月26日

発 行:宮城県農政部農業振興課

編 集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbf@PRef.miyagi.lg.jp